

# 序

当教育研究所では、平成9年度も恒例の事業となっている教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿を募集しましたところ、論説の部に6編、実践記録の部に8編の応募をいただきました。

論説の部では、生涯学習の具現を目指した「足利市の教育目標」の見直しについての意義と今後の展開についての提言を、更に本市の五人の英語指導助手がそれぞれの立場から本市の英語教育に関わる感想、問題点、提案事項などについて述べております。関係者に是非ご一読いただき、更に議論を深めていただけたら幸いです。

実践記録の部につきましては、学校関係者から、自分の思いを大切に表現活動を楽しむ子の育成を目指した指導のあり方を研究された岡工科の実践、「補充・深化・統合」を明確にした総合単元的な道徳学習の実践、情報活用能力の基礎を養うためのコンピュータを活用した授業のあり方の実践、社会の変化に主体的に生きる力の育成を目指した社会科学学習の実践、新しい学力観に立った進路指導の試みとして校内進学説明会の見直しを図った実践、問題解決場面での支援のあり方を追求した算数科におけるチームティーチングの実践的研究、通級制のこぼの教室の2年間の歩みをまとめた特殊学級から通級指導教室の実践など、また、社会教育関係者から乳幼児関連事業における連携方策についての実践といった、いずれも今日的な教育課題に真剣に取り組まれた力作であります。

以上、多くの学校教育関係者や社会教育関係者の方から日頃の教育上思索や教育実践の成果を發表していただきましたが、これらの論文は、読者のみなさんの教育観を深める大きな契機になるに違いありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも各教育現場における日々の教育実践に十分生かされることを期待いたします。

なお、今年度も、教育論文第1集から昨年度までに掲載された論文のテーマ及び執筆者一覧を付記しました。論文は、教育研究所に保存しておりますので今後の研究の一助としてご活用いただけたら幸いです。

終わりに、論文をお寄せくださった研究者の方々をはじめ、関係の方々にお礼を申し上げるとともに、皆様ますますのご活躍を祈念して序といたします。

平成10年4月

足利市立教育研究所長

吉 田 哲 也